



ミハル通信、新たにパラボラアンテナ製造体制を確立

ミハル通信（神奈川県鎌倉市、岩田春樹代表取締役社長）は、10月からパラボラアンテナ生産拠点である社家工場（神奈川県海老名市）が本格稼働したことから、10月17日に報道関係4社向けに合同取材会を開催した。ミハル通信は、2023年4月に古河電工グループの旧古河C&B（FCB）の事業を継承し、新たに放送・無線事業を開始した。なかでも無線事業の主力のひとつであるパラボラアンテナにおいては、新たに背面加工工程を含めた自社生産体制の構築に向けて準備を進めていたもの。

ミハル通信は、パラボラアンテナをはじめ長尺可とう導波管「レクトガイド」、矩形導波管などのマイクロ波製品を取り扱っている。社家工場では、主に口径2.5、3.5のパラボラアンテナの生産を行っている。

通信インフラの安定供給を担う同社は、取引先であった主要サプライヤーの撤退で不安定化していたパラボラアンテナ製造の内製化を進め、国内で唯一、マイクロ波固定通信伝送路部品をフルラインアップで提供できる体制を整えた。従来、パラボラアンテナの背面構造加工は外注に依存していた。

また、自動運転の高度化などに伴う高速道路へのV2X（Vehicle to X）通信導入に伴う周波数再編で、置換え需要が高まる中、市場の変化に迅速に対応する考えだ。放送・通信業界では、こうした変化に対応できるメーカーは限られており、同社の取り組みは市場に大きなインパクトを与えるものとしている。

◇ 新設された社家工場の敷

地面積は約828平方メートル。パラボラ生産に適した天井高（約6.7メートル）と取り回し環境が特徴。クレーンを設置して、4ライン同時生産が可能であり効率的な製造体制を構築した。社家工場では、直径3.5センチメートルのアルミ絞り加工品を用いた背面構造の溶接組立を実施している。生産能力は、月産最大20面程度を想定している。パラボラ製造工程でいちばんのポイントとなるのが、アルミ溶接だという。同工場で各部品を溶接により組立ていく。これは品質・強度を左右するため、熟練を要する重要な工程だ。そしてパラボラを完成させるため、鏡面材料に対し背面構造加工を実施する。これは、鏡面を支える部品を溶接し強度を確保するもので、背面構造の強度設計により要求される耐風速基準を満たすことになる。

なお、最終組立／検査は平塚事業所で行う。社家工場より搬出したものを、パートナー企業が塗装する。パートナー企業がレドーム（アンテナを保護する樹脂製カバー）を製作。同事業所で実施放射器・レドームを取り付けて完成と

社家工場を新設、熟練のアルミ溶接技術を継承 マイクロ波固定通信伝送路部品をフルラインアップで提供

合同取材会で荒沢知宏執行役員製造部長らが会見した。

一問一答は次の通り。
――パラボラアンテナ生産を本格移動した理由は何ですか

「神奈川県茅ヶ崎市に本社があったパラボラアンテナ生産の古参企業が今年3月に完全に廃業しました。

口径2.5以上の大型パラボラアンテナをはじめ、各種アルミ製品を製造していた。同社の廃業は業界を揺るがしかねない危機的状況でした。当社は、旧FCBで展開していた放送無線アンテナもこの企業に製造を依頼しており、弊社放送無線事業の継続だけでなく、放送・通信インフラに

寄与するパラボラアンテナの安定供給を確保すべく今回の新工場移動となりました」

――パラボラの背面加工には熟練のノウハウが必要と聞きました。

「その通りです。そのため、当社は廃業した企業に在籍していた社員を迎え入れました。皆さん、アルミ

の溶接技術で熟練した技術をお持ちです。そうしたことで、我々の放送や無線の事業がそのまま継続できることになりました。今後は、技術を継承し若手の育成も行っていきたいと思っています」

――機械ではできない人の技術が製品作りに役立っていますね

同社は地上デジタル放送対応の各種放送製品その他

パラボラアンテナの材料



「強調したいのはパラボラアンテナは単なる機械生産ではなく、まさに技術の塊のような製品になりますので、やはり機械ではできません」

に、演奏所と送信所及び送信所と受信所の無線回線に使用する高性能な通信用パラボラアンテナを提供している。

ミハル通信が取り扱っている パラボラアンテナ

◇デジタル多重無線通信（大容量128QAM方式）用パラボラアンテナ（対応周波数：6.5MHz帯、7.5MHz帯、12GHz帯）
業務用及び公共用の情報通信に使用される自営マイクロ回線において、デジタル化による大量の情報伝送が要求されている。このデジタル無線に使用される高性能なパラボラアンテナを提供している。



ミハル通信の社家工場



①⑥工場内のパラボラアンテナ製造過程

ない部分が多いです。設備は最低限の動力で、溶接機があればあとは人間の力で作りあげていきます。アルミ溶接は鋼材より困難とされています。今回、新たに社家工場に迎え入れた従業員の皆さんは10年以上パラボラアンテナの生産に携わってきた熟練の方々に